

混合交通を観察する
DOCUMENT EYE series—241

車両の右左折時のウィンカーの点灯タイミングを観察する



ある日の午後、気になる実際の交通状況を観察してみました

信号機のある交差点で右折および左折する車両は、ウィンカーの点灯をいつ開始しているか？



Q1

交差点の「30m以上手前」の地点で、右左折の合図を開始したクルマは何%いたでしょうか？

- 観察場所／東京都世田谷区弦巻2丁目付近
- 観察日／1月22日（土曜日）
- 天候／晴れ
- 観察時間／14:00～15:00
- 観察者／3名



Q2

交差点の直前（「0～10m手前」の地点）で、右左折の合図を開始したクルマは何%いたでしょうか？



Q3

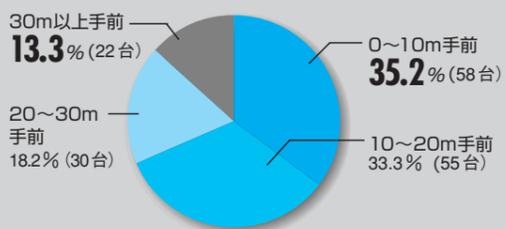
交差点でクルマが左折する際に、バイクや自転車の巻き込み事故が起こることがあります。この事故を防ぐには、ドライバーはどうすればよいでしょうか？

実際の観察から

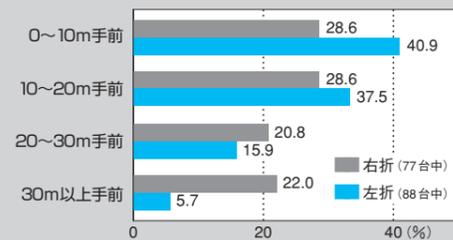
解答・解説

Q1の解答：13.3%

■右折時・左折時合計（165台中）



Q2の解答：35.2%



■右左折時のウィンカー点灯開始状況（165台中）

※点灯開始のタイミングは観察者の判断による。

	乗用車	タクシー	バス・トラック	二輪車	小計
0～10m手前	42	12	2	2	58 (35.2%)
10～20m手前	45	2	6	2	55 (33.3%)
20～30m手前	26	0	2	2	30 (18.2%)
30m以上手前	11	5	3	3	22 (13.3%)
小計	124	19	13	9	165

- 右左折する約7割の車両が交差点の「0～20m手前」でウィンカーを点灯させていた。
- 右折時より左折時のほうがウィンカーを点灯させるタイミングは全体的に遅く、約4割の車両が交差点の「0～10m手前」で点灯させていた。
- 交差点の「0～10m手前」でウィンカーを点灯させる車両のほとんどは、ブレーキをかけてから、ウィンカーの点灯を開始していた。
- 交差点の「30m以上手前」でウィンカーを点灯させた車両はすべて、ウィンカー点灯後にブレーキをかけていた。



左折する前に道路の左側端に寄せたトラック

- タクシーは交差点を曲がる直前でウィンカーを出す傾向が多く見られた。
- 左折時に左側端に寄せる車両はわずかだった。一方、右折時はほとんどの車両がセンターライン側に寄せていた。



「30m以上手前」でウィンカーを点灯させるクルマの割合は左折よりも右折のほうが多かった



左折する直前にウィンカーを点灯させるタクシー

Q3の解答：

左折する交差点の手前から、あらかじめクルマを左側端に寄せしておくことにより、バイクや自転車が自車の左側に入るのを防ぐことができる。左側端に寄せる際は目視で周囲の状況をしっかりと把握することも大切である。

ここがポイント

●右左折時の事故を防ぐためには、周囲に対して自分の行動を早めに伝えることが重要。

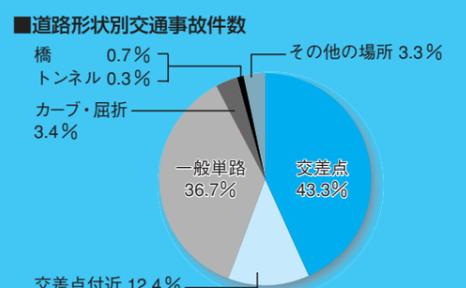
例えば、追突事故を未然に防ぐ有効な手段は、ブレーキランプ（赤色＝警告）を点灯させる前に、ウィンカー（黄色＝注意）を点灯させ、自分がこの先で右左折するという意思を示した上で、緩やかに減速に移行する操作が必要である。そのためには早めのウィンカー点灯が必要であり、早めにウィンカーを点灯させることで、周囲に自車の行動を把握してもらい時間を稼ぐことも可能となる。

道路交通法では、車両が交差点で右左折する際、
・周囲の安全を確認し、進路変更をする3秒前に進路変更の合図を出す。
・できるだけ道路の左側端または中央に寄る（交差点の約30m手前で寄っていること）。
・交差点の約30m手前で右左折の合図を出す。
・いつでも止まれる速度で進み、左折時は側端に沿って、右折時は中心のすぐ内側を徐行する。
と規定されている。

ワンポイント DATA

交通事故の半数以上が交差点・交差点付近で発生！

平成21年中の交通事故件数を道路形状別にみると、半数以上の55.7%は交差点と交差点付近で起きている。特に、交差点や交差点付近では交通ルールを守り、右左折の合図などは早めに周囲に示すことが大切である。



出典：(財)交通事故総合分析センター「交通統計 平成21年版」